

令和3年6月4日

浜松市長  
鈴木 康友 様

浜 松 市 議 会  
市民クラブ 所属議員一同

## 新型コロナウイルス感染症に対する提言

5月連休以降の感染患者急増に対し、市長は5月26日、浜松市として独自に「新型コロナウイルスの感染拡大警戒宣言」を発令。若年層や外国籍感染者の構成比の高まりなど、直近の感染状況を鑑み、市民に対し注意喚起を行った。

一方、現状で唯一の対策と言われるワクチン接種については、高齢者のうち80歳以上の方々を皮切りに、年齢層を細分化して接種券を送るなどの工夫で、混乱なく高齢者接種を進めることに成功している。しかしながら、65歳未満の世代はいつ接種を受けられるのか分からないとの心配の声も多く聞かれる。

政府は企業事業所や、大学構内でモデルナ製ワクチンを使った新たな接種方法について言及するなど情報も錯綜し、いつどの様にワクチン接種を受けられるのかなどについて、明確なメッセージ発信が求められている。

私たち市民クラブは、多くの市民の声から別紙の通り緊急提言を行うものである。

No	市民クラブ提言	行政対応
	<b>1. 情報発信について</b>	
	新型コロナウイルス感染症の特異性の周知	
①	今さらながらの感はあるが、通常のインフルエンザと異なり、発症前にも体内でウイルスが増殖することで他の人に感染させる特徴があることをもっと周知するべき。	
	情報発信	
②	感染拡大地域への不要不急の往来やマスク着用・アルコール消毒の徹底など、コロナ禍に対する基本的な感染予防対策を怠り感染したケースが増えている。また、本市では安全モードへの切り替えや「感染拡大警戒宣言」などの情報発信をしているものの、その内容が市民に行き届かなくなっていることを踏まえ、市民に「安全モード」と「経済モード」の切り替えがわかりやすく伝わる仕組みや、「安全モード」下では市長メッセージの定例化など、市長の露出回数を増やすなど、市長のリーダーシップにより市民に早く状況を伝え安心・安全を実感できる情報発信をするべき。 また、例えば、浜松駅や各種公共機関、施設に安全モードに切り替わったことを掲示するなど、啓蒙に取り組むべき。	
	<b>2. 医療体制について</b>	
	軽症者への対応 症状の見える化の推進	
①	症状確認として、血中酸素濃度計測（パルスオキシメータ）を貸与し、肺機能の状況を数値で確認し急変に備えるべき。 加えて、デジスマの助けを借りて、パルスオキシメータの計測値をネットで繋いでモニタリングする仕組みを導入すべき。	
	PCR検査、もしくは抗原検査	
②	感染力が従来より強い変異株の感染拡大を考えると、迅速な検査体制の増強は不可欠と考える。 については、可搬式抗原検査ツールなどの追加と、それらを使いこなして検査の拡充につなげるための体制づくりを早急にすべき。	
	PCR検査または抗原検査の対象を広げた検査実施	
③	連日30名を超える陽性者が発表されており、濃厚接触者の追跡が行われているが、追跡が後手後手にならないように濃厚接触者の周りや関わりをもった方々にも検査を行い、感染の拡大を食い止めるべきと考えるため、これまで以上に検査対象を広げることを考えるべき。	
	感染者の病床、軽症者の入院先の確保	
④	GW以降の感染拡大による病床使用率の増加を受け、さらにはこの先の感染者拡大が心配されるため新たな病床や軽症者用の施設の確保を急ぐべき	
	<b>3. 役所の対応について</b>	
	担当部署・職員	
①	担当部署・職員の労働時間は適切な管理対応がなされているのか。 庁内での協力・支援の体制は出来ているのか。それは機能しているのか。 さらなる状況の悪化を想定した準備をするべき。	
	<b>4. ワクチン接種について</b>	
	優先順位	
①	警察、消防士といったエッセンシャルワーカーの優先接種に加えて、変異株が若年層にも感染することから幼稚園、保育園、学校で働く人たちにも優先接種を行うべき。 マスク等の着用といった感染対策を守ることが難しいと報道されている認知症高齢者や障害福祉サービス等事業所への通所者などへの優先接種。 ならびに、これらの施設の職員への優先接種をおこなうべき。	
	集団接種	
②	現在8か所の会場での集団接種が予定されているが、接種後の経過観察が必要なため接種会場の広さが接種できる人数を決めてしまうと考える。 については、浜松アリーナなどの大きな広さを持つ集団接種会場の確保を急ぐべき。	
	集団接種の予約状況	
③	集団接種の予約状況は、ネットなどで予約可能枠をリアルタイムで表示する、また国や県からの支給計画なども含め「見える化」すること。また接種対象者に同居家族がいる場合には、この情報を家族にプッシュ型で伝達する仕組みを作るなど、効率良く接種予約ができるようするべき。	
	ワクチン接種における予約難民発生の防止	
④	スマホが無くLINEやインターネットでの予約ができない方や、コールセンターの電話が混雑のために接種予約が出来ないケースがある。 他自治体では、日時を指定して連絡をするプッシュ型の接種予約やスマホが苦手な方の為に携帯電話会社の店舗で予約をサポートする仕組みが行われている。 このようなワクチン接種予約をスムーズにする取組みを進めるべき。	
	企業内・団体内での接種	
⑤	企業内の産業医などを活用した職場での接種を推進する動きがあるが、産業医の人数上難しいことが予想される。接種可能な医師・看護師・保健士の派遣など必要なリソースについてはどのように考えるか？ また企業では市外・県外から通勤している方も多く、この方々の対応方法も含め、企業が相談できる窓口を至急設けるべき。	
	浜松に住所を置いたまま、他市で生活している方の接種	
⑥	大学生などでは首都圏などの大学に進学し、実際は他市で生活していても、浜松に住所を置いたままとしている方も多く、接種券が浜松に届いても、緊急事態宣言下では浜松に来て接種することも叶わず、また実際に生活している市では接種できないと思われる。このような場合の対応を至急検討するべき。	